

令和4年度 大田区立馬込小学校 自己評価報告書

令和5年3月10日

○ 本校の概要

○ 学級数 21学級 ○ 児童数723名(令和4年5月6日現在) ○ 教員数28名 …校長1、副校長1、主幹教諭1、指導教諭1、主任教諭4、主任養護教諭1、教諭19(休業除く)

○ 校内研究 研究主題「伝え合う力を高める指導の工夫」-ICT機器の活用を通して-

○ 研究指定 大田区教育委員会 家庭学習推進校 …ICTを活用した家庭学習「馬込家庭学習DX」の研究

○ 特色ある教育活動 … 馬込の特色を生かした地域学習の充実「シクラメン栽培(3年)」「大森妻わら細工(4年)」「馬込半白胡瓜、馬込三寸人参の栽培(5年)」「馬込の歴史調べ(6年)」, 国際理解教育の充実「海外とのオンライン交流」

○ 体験活動、人との関わりを大切に活動の重視 ○ 学校支援地域本部「スクールサポートまごめ」と連携した教育活動

○ 教員の交換授業(一部教科担任制)の実施

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄					
								評価 人数 コメント					
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 全て90%以上	2	大田区家庭学習推進校としての取組「馬込家庭学習DX」や区教育委員会ICT教育推進専門員の指導の下で進めた校内研究を中心に、ICT機器を活用した授業を積極的に展開することができた。タイピング検定なども取り入れ、児童の操作スキルも大きく向上している。 保護者アンケートの肯定的回答がわずかに80%に届かなかったが、この項目について「わからない」との回答が12.5%あった。効果が児童の姿勢となって表れるようにするために、教育課程の見直し、授業改善を図る。また、今日の諸課題に対する本校の取組についてより理解されるように、学校広報による啓発や家庭との連携といった点でも工夫が必要である。独自教材「おたの未来づくり」新設に向けても、学校全体でのカリキュラム・マネジメントを進める。	A 6	★ 6年児童の成果評価が高いのでよい方向に進んでいることと思います。				
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3: 全て80%以上					B 1	★ ICT機器を器用に扱う児童の適応能力の素晴らしさを感じています。タブレットを活用した学習の取組の協力から課題も高い各家庭の理解と協力が不可欠と思いました。		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	4: 全て90%以上							C 1	★ 掲示物を拝見して子どもたちのタブレットを使用した製作作品が、子どもたちの評価どおりだと感じました。
		他の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	2: 全て70%以上								
体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1: いずれかでも70%未満										
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4: 全て90%以上	3	成果評価「4」にわずかに達しなかったが、アンケート結果は児童、保護者とも肯定的な回答率が高かったと捉える。「わかった、できた」という感覚は、次の学習への意欲や自己肯定感の向上につながるものであり、大切にしたい。毎時の授業において、「何ができるようになるか」という育成を目指す資質・能力を教師と児童がしっかりと共有できる授業づくりを心がける。めあての明確化は当然だが、学習の見直しをもたせる指導、しっかりと振り返りをさせることを意識した授業づくり、児童の言語活動の一層の充実を図る。	A 7	★ 一人一人に目を向けていただいて、先生方が取り組まれていることが何より大切なことと思います。個人差にも配慮していただくようお願いいたします。				
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3: 全て80%以上					B 1	★ 保護者の方々もほぼ満足されている様子。先生方の日頃の細やかな指導が評価されていると思います。これからも様々な取組に期待したいと思います。		
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	2: 全て70%以上							C 1	★ 心配事が多いと学習に集中しづらくはありますが、馬込の児童はTPO(切り替え)の能力は高いと感じます。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1: いずれかでも70%未満								
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人一人の正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4: 全て90%以上	3	学校生活の基本として、馬込生活スタンダードに基づく指導を全学年・学級で統一して行うとともに、定期的な振り返りをさせることで定着を図っている。「自分や友達のことを大切にしている」で肯定的な回答をした児童の割合	A 7	★ 自他を尊重して自己肯定感が養われることが一番と思います。学校外の影響もあると思いますが一般論として少数量への関心を忘れることがないように心がけたいと思います。				
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3: 全て80%以上					B 1	★ 不登校や不適応等については各家庭の環境もあり、とても難しいことだと思います。先生方があきらめずに取り組みしている姿に敬意を表します。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 全て70%以上							C 1	★ 勉強よりも重要な部分で高い結果を得ていることにも素晴らしいです。自分のことも友達のことでも大切にできるというのは、小学生にとって簡単なことではないと思いますが、しっかりと意識していることが大助かりと感じました。
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: いずれかでも70%未満								
問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対しておたか会議を実施した。 3:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4: 全て90%以上	A 7	★ コロナの影響が小さくなってからの変化に注目したいと思います。								
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4	4: 全て90%以上	2	教員の成果評価が良好であるにもかかわらず、それが児童の実態や意識に十分に結びついていないことに課題を感じる。コロナ禍において運動の機会や環境等に少なからず制限があったことが、児童の運動離れの一因とも考察する。体育授業や体育的活動の工夫・改善を中心に、児童のスポーツ志向が高まる様々な取組を考えていきたい。令和5年度からの校舎増築工事に伴い運動環境の確保は大きな課題である。家庭や地域との課題共有や連携も重要であると考え。	A 7	★ コロナ禍が続き中でしたが、日常が少しずつ戻ってきていると思います。児童が運動に楽しく取り組める工夫が必要かもしれません。		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4	3: 全て80%以上					B 1	★ 大人もそだたがコロナ禍により運動不足をまねいたことも考えられますね。好き嫌いもあるとは思いますが、体育の授業などをきっかけにしてそれぞれが好きな運動を見つけられると良いと思いました。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4	2: 全て70%以上						
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1: いずれかでも70%未満	D 1	★ 体力、持久力がないと、いざ鎌倉へは向かえないと思います。						
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 全て90%以上			3	校内研究を中核としてICTを活用した「伝え合う力」の育成に努めてきた。また校内におけるOJTや校内研修の充実を図り、各教員が一定のスキルと共通の意識をもてるように取り組んできた。コロナ禍の下での学校公開は、時間指定等の制限が多く、保護者からは参観が難しいという声もあつた。感染症対策ガイドラインの緩和に合わせて実施方法を改善していく必要がある。	A 7	★ 先生方の心身のゆとりも関係してくると思います。バランスのよいOJT等が行われることを望みます。		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3: 全て80%以上							B 1	★ ICTを適切に活用し授業の充実がされていることで先生方の事前準備も大変なではないでしょうか。
		各種発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 全て70%以上								
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1: いずれかでも70%未満	D 1	★ 日々の小さなことで細かい思いやりの必要性を感じます。						
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わられた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4: 全て90%以上	2			学校広報力を入れてきた。特に学校ホームページは必要な情報の迅速な届出を行い、「馬込の日常」については毎日更新を徹底し、年間目標としていた330記事掲出は10月中旬に達成し、さらに継続している。コロナ禍の下、保護者や地域の方々から学校の様子を把握しにくい状況においても「積極的に伝えていく」と捉えていただいております。今後も継続に努める。	A 6	★ 保護者の成果評価がとても高いことに感心しました。先生方の熱心な取組の表れだと思います。			
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4							3: 全て80%以上	B 1	★ 学校ホームページより毎日の学校の様子、取組が発信され、とても素晴らしいことだと思います。学校支援地域本部も先生方に気軽に活用していただけるようになりました。地域の皆様も学校とのかかわりを楽しみにされています。
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							2: 全て70%以上		
		家庭との連携により「馬込家庭学習DX」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1: いずれかでも70%未満	D 1				★ スポーツのプレイヤーと応援の関係のように相互理解と盛り上げ後も重要視したいと思います。		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。